○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

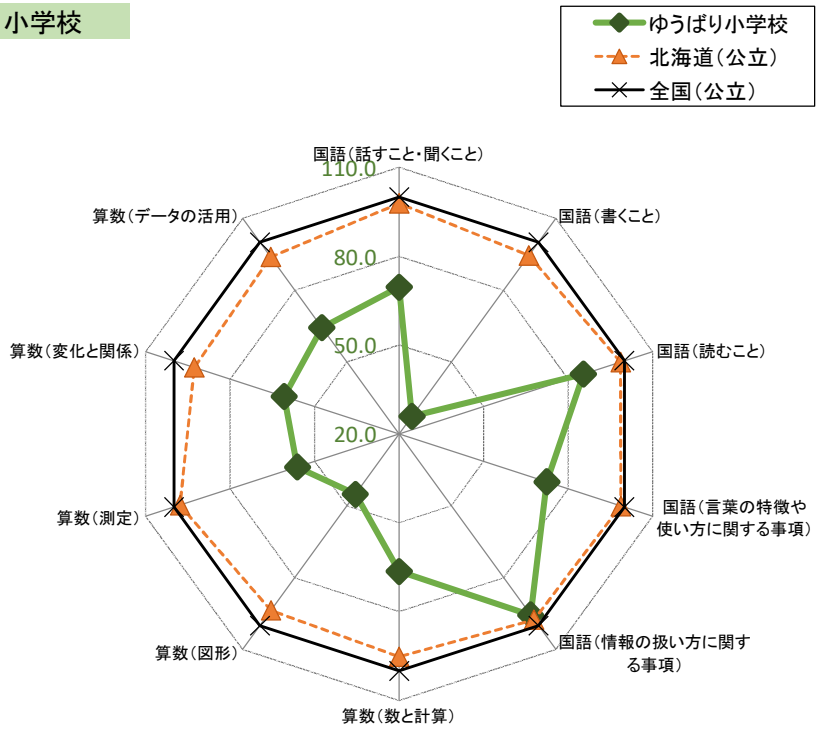
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

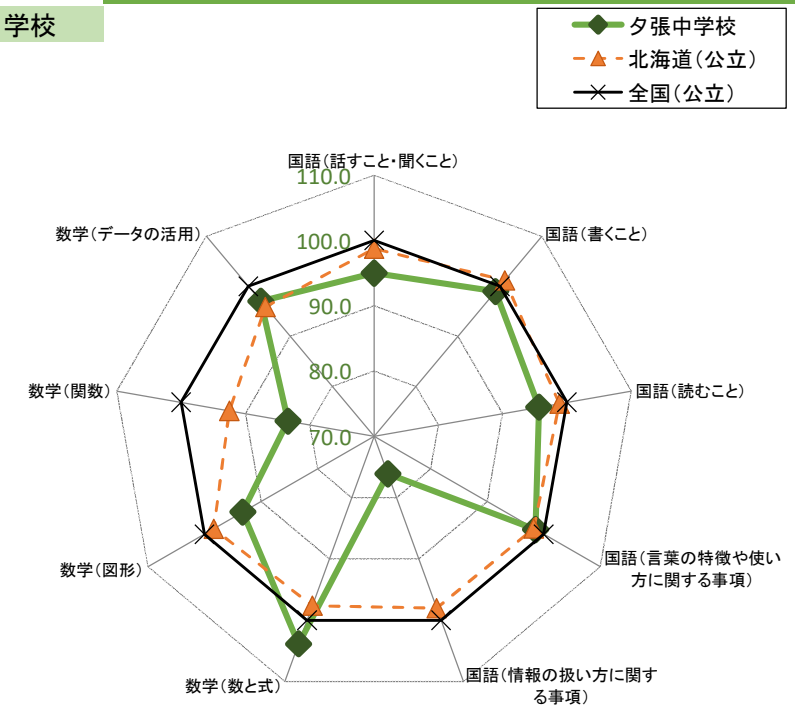
※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
夕張市	44	35	61	55	501
北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

小学校



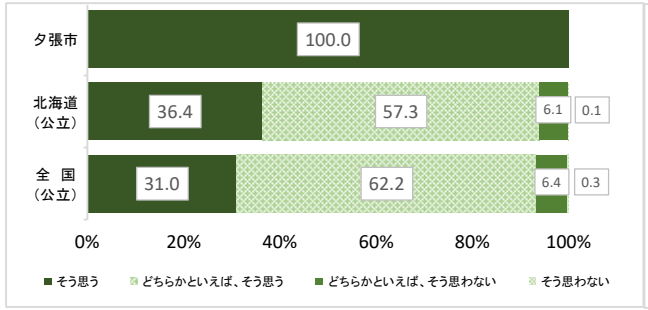
中学校



○ 質問調査の状況

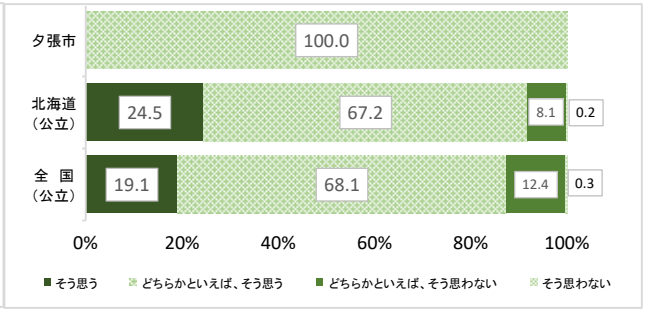
小学校
＜学校質問＞

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか



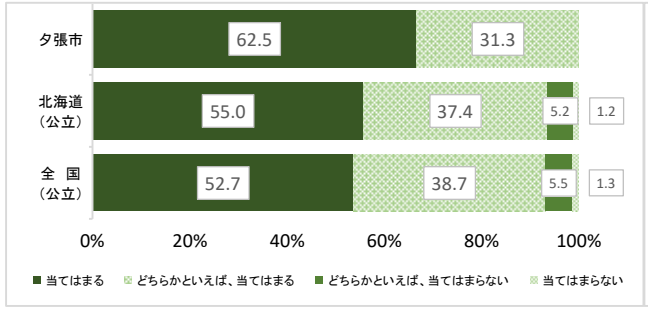
中学校
＜学校質問＞

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



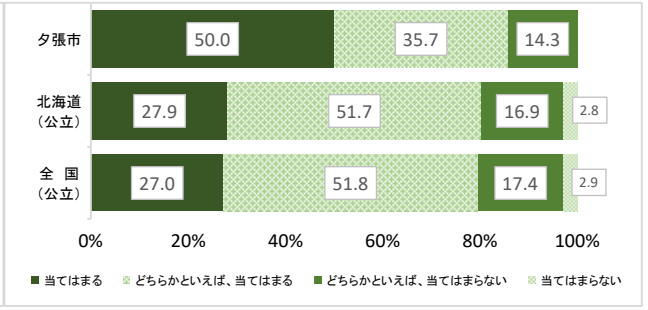
小学校
＜児童質問＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



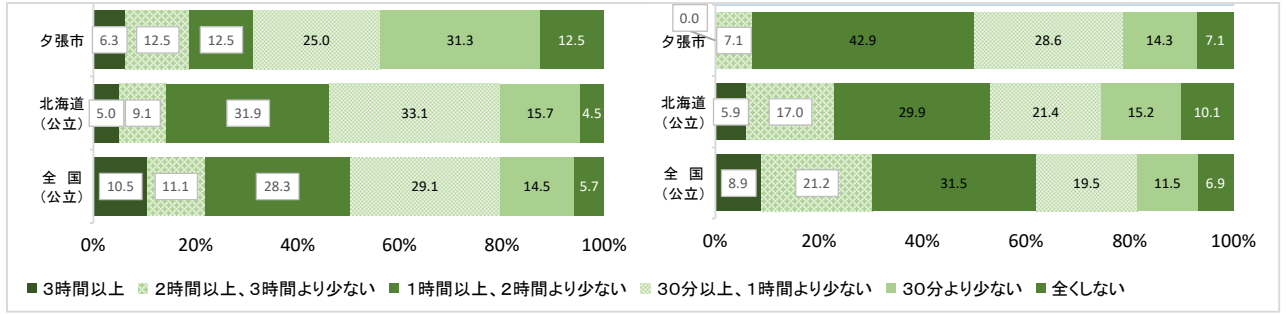
中学校
＜生徒質問＞

1、2年生のときに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



小学校
＜児童質問＞

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



中学校
＜生徒質問＞

○ 調査結果の分析

- ＜小学校＞
  児童が主体的に学習に取り組む姿を醸成するためにファシリテート型授業への転換を図っており、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」との問いに当てはまると回答をした児童の割合が、全国及び全道の調査結果を上回ったと考えられる。

- ＜中学校＞
  ICT機器やデジタルコンテンツを積極的に活用し、生徒自らが各自の課題に応じた学習が出来るよう、教師が支援し「個別最適な学び」を実践している。また、授業以外でも、子どもたちの主体的な取組を推進し、「1、2年生のときに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに当てはまると回答した割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

- 「主体的」かつ「協働的」な学びに向かう姿は、各校での取組みにより形成されつつあるものの、国語、算数（数学）の平均正答率において、小、中学校とも全国及び全道を下回っている状況は、学校の授業時間以外での勉強時間が小学生では1時間未満、中学生では2時間未満の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

- 学力・学習状況調査や標準学力テストの分析を踏まえ、小中一貫教育のもと、9年間を見通した一貫性・系統性のある授業を構築する。
  また、幼児期から小学校期へ円滑な接続を図るため「架け橋期のプログラム」を策定、推進する。

- 児童生徒の主体的な学びを支援する伴走者としての「新たな教師の学びの姿」を実現するため専門性の高い外部講師を招聘するなどし、スキルアップに努める。

- 学校運営協議会と連携した家庭学習協調週間の実施により家庭学習の習慣化を図る取組を推進する。